



発行 社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 (財)日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話:03(5378)1506 FAX:03(5378)1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス 「変化に対応するスピードをアップ / 進化する小集団活動をさぐる」
- 2-私の提言 情報の見極めと予測のチャンス
- 2-ルポルタージュ 第300回関西事業所見学会ルポ
- 3-第34年度品質管理推進功労賞推薦お願い / 研究会メンバー募集
- 4-1月の入会者紹介 / 行事案内

「変化に対応するスピードをアップ / 進化する小集団活動をさぐる」 - 第6回小集団活動実態調査より -

QCサークル本部指導員・「QCサークル」誌編集委員 松田 啓寿

日本の「品質」を担う第一線職場ではいま、「現場力の再生」に向けて様々な知恵を絞り、企業をとりまく環境変化へ対応するスピードを加速している。既に成果を享受している職場が着実に増えてきている一方、次の飛躍に向けて努力を続けている職場も多いようである。

QCサークル本部では、職場や組織をとりまく環境の変化に応じたより良い活動のモデルとして、「e-QCC：進化したQCサークル活動」の目指すべき姿として次の3つの考え方を示している。

- a) 個の価値を高め、感動を共有する活動
- b) 業務一体の活動の中で自己実現をはかる活動
- c) 形式にとらわれない、幅広い部門で活用される活動

QCサークル本部は昨年、全国QCサークル支部の協力を得て、8年ぶりとなる「第6回小集団活動実態調査」を実施した。そこで、経営者・管理者の皆さんに組織に貢献できる小集団活動推進のヒントを提供したい(調査の内容は2004年品質月間テキストNo.328「進化する小集団活動をさぐる - 第6回小集団活動実態調査より -」で報告)。

調査結果全体を通した結論としては、小集団活動の「進化」は着実に進んでいることが挙げられる。その

事例のいくつかを次に示す。

- 1) 「小集団活動の狙い」では「企業業績の向上」をトップに挙げる比率が増加した
- 2) テーマを選定する際、「メンバーと相談」を抑えて、「上司・スタッフ・リーダーと相談」が大幅に増加した
- 3) 「この活動を進め良かったと思う」と感じているリーダーの比率は91%であり、リーダー・メンバーともに自分自身が成長したと実感している

一方「困っていること」の上位に「時間的余裕がない」があり、その結果を受け小集団活動の活発度が低下した。リーダーの思いから管理者、推進者が受け止めるべき課題としては、適切な教育の機会を与えること、テーマ選定の時点から支援すること、活動環境の整備を積極的に行うことである。

今回の調査結果から、e-QCCの目指すものが、着実に行動につながってきている様子をうかがうことができた。QCサークル支部長を通して各地区の幹事会社に調査依頼をしたという調査の特徴があるので、QCサークル本部が提唱しているe-QCCが相応に浸透していることは、ある意味当然とも考えられる。何れにせよ環境変化への対応を迫られている組織では、それぞれの生き残りをかけて経営者のリーダーシップのもと、「現

場力」を醸成しさらにパワーアップする必要性を認識していることと想像できる。現場力をアップさせるための重要なツールのひとつが小集団活動であり、これの再活性化は組織の要求であると同時に、時代の要請でもあろう。

小集団活動実態調査結果に最も関心をもつ読者はどのような立場の方々だろうか？ 察するに企業・組織の推進事務局、或いは現場力向上の必要性を認識している熱心な経営層・管理者であらう。「ウチ(の職場)は世間(他所)と比較するとどのレベルだ？」というのが本音かと思われる。

本調査は「当社の位置づけはどの辺りか知りたい」という疑問に対する情報も提供している。

例えば、テーマ解決件数の分布から、自職場の実態と世間レベルとの比較を行うことができる。「テーマ解決件数の平均は2.5件/年」これよりも多ければひとまずは世間並み以上といえる(前回調査平均は3.4件/年で、今回は低くなったように見える。前々回調査は2.7件/年であった)。

リーダーに対する「今後も小集団活動を続けたいか？」の設問に対して「活動を続けたい」が83%と非常に高く、リーダー自身の強い活動に対する意欲を感じることができた。これからの新しい展開に大いに期待したい。

私の提言

情報の見極めと予測のチャンス

電気通信大学大学院
情報システム学研究科 教授 田中 健次

日本国産のロケット打ち上げが成功しました。数度の失敗の後、多くの問題を克服しながら成功に至った

技術力とマネジメントは評価に値するものでしょう。地上では、三河島事故の反省から開発されたATSやATC装置が、鉄道の安全運転に寄与しています。過去の失敗が様々なシステムの成功の原動力となっていることは今さら特筆するまでもありません。

しかし、ヒヤリ・ハット情報を集め立派なデータベースは構築したけれども設計に活用されていない、という声は、今でも多く聞かれます。

単にインシデントを集めただけでは無用の集積物であり、そこから普遍性、水平展開可能な故障メカニズムやパターンを見つけるなど、裏のメカニズムを見出して知識化しなければ応用が利きません。そこには、「なぜか」を問う姿勢と、洞察力、少しばかりの想像力が必要です。

確かに、最近のシステムや製品には、内部のメカニズムが把握しにくい、スピードが速くて追いつかない、など人間の認識能力を超えた様々な要因があり、現象の想像を難しくしていることは事実です。しかし、注意深く「視れば」予兆を観測できることがあるし、事故が起こると新聞が過去に発生した類似の事故を並びたてる状況は、事前に予想するチャンスが結構あるという

ことを示唆しています。

スペースシャトルの爆発事故や新幹線のトンネル内コンクリート崩落事故は、専門家により予測された出来事であり、原子力の蒸気噴出事故も検査漏れが担当者から指摘されながら放置され続けた結果起こった事故です。

このように、事故に結びつく情報は探せば見つかるものです。重要なことは、これらの情報を如何に見極め、重大事故の予測に繋げるかにあります。それは決して雲をつかむような話でも、想像力だけの世界でもなく、ロジックと不確実性への洞察、判断の世界であり、一寸の想像力が必要になるだけでしょう。どのような環境のもとで、どのような人がどのような心理状況で作業するのか、製品やシステムがどのような変化を引き起こすのかをじっくり考えれば、起こり得る事象を予測するチャンスは十分にあるはずで

そして、知識や数少ない情報を如何に現実の現象と結びつけるか、その強化こそが今、必要ではないでしょうか。

第300回関西
事業所見学会
ルポ地下鉄中之島新線
土木工事第1工区

2004年10月21日(木)第300回事業所見学会が、中之島新線(地下鉄工事)土木工事第1工区において『地下鉄土木工事における「見せる現場造り」』のテーマで開催された。前日には各地に大きな被害をもたらした大型台風23号が大阪を通過し、見学会の開催が危ぶまれたが、当日は見学会日よりの天気となった。

中之島新線は、京阪電気鉄道(株)と大阪府、大阪市などが出資する第三セクターの中之島高速鉄道(株)が鉄道施設の建設・保有を行い、京阪電気鉄道(株)が列車を運行する玉江橋~天満橋間複線2.9キロの地下鉄で、平成20年度の開業に向けて工事が進められている。

今回訪問した第1工区は、国際文化ゾーンであるホテルや国際会議場の前での施工となるため、都市土木の問題点となる環境面(騒音・振動など)の対

策はもとより、仮囲いを行わない「第三者に見せる現場造り」によって作業者のモチベーションの向上、さらには安全・品質のアップをねらっているという。

工事概要として、地下鉄工事で最も重要な品質管理項目である本体構築(躯体)の出来型管理や、SMW壁の鉛直精度などの説明を受けた。また、環境デザイナーのアドバイスを受けて行われている、工事中の景観・環境整備対策についてはCGイメージを交えながらの解説をしていただいた。

その後、仮遊歩道での「野鳥のオアシス」「香りの小径」「針葉樹の森」という3つのテーマによる植栽のゾーニング、10基の風力発電機を設置してクリーンエネルギーを利用した環境対策、既存施設をリサイクルした花壇やベンチ、緑化占有柵の様子などを見学した。実際に手の行き届いた植栽と目の前の工事現場を見て、説明通り新しい工事スタイルを実感することができた。

個人的に、この新線が開通することによって、京都・枚方方面から関西支部事務局がある堂島へのアクセスが非常に良くなることを楽しみにしている。

小林 昭夫(日本科学技術連盟)

第34年度 品質管理推進功労賞： 学会員の皆様 候補者の推薦をお願いいたします！

(社)日本品質管理学会品質管理推進功労賞は、品質管理推進に尽力されている多くの方々に活力を与え、品質管理の発展がより加速され、ひいては産業界の発展に寄与できることを願って創設されました。本年度は第5回となり、次の要領で実施いたしますので、奮ってご推薦の程お願いいたします。

但し、推薦にあたっては次の点にご配慮ください。

- 1) 本賞選考の推薦は全てEメールにてお願いいたします。
- 2) 推薦に際しては、予め被推薦者の了解を得て、被推薦者本人の確認を受けた書類を送付してください。

記

A. 本賞の授賞資格（品質管理推進功労賞内規）：

以下のいずれかの条件を満たす会員とする。

- 1) 企業・各種団体（以下、組織という。）に所属し、所属組織の品質管理の実践と推進に多大な貢献をした、もしくは、していると認められる者。
- 2) 組織に所属し、本会に対する多大な貢献があった、もしくはある者。
- 3) 組織に所属し、品質管理に対する造詣が深い者。
- 4) 本会の役員2名以上の推薦があった者。

B. 本年度選考方針：

- a. 本年度は、既に本来の所属企業を退職している人も対象として含めるものとし、表彰対象者数は、約6名程度とする。
- b. 本賞対象者の推薦に際しては、55～65歳位を目安とし、70歳以上ならびに50歳以下は避けるものとする。
- c. 本来の所属企業で取締役になった人は避ける（理事、執行役員は対象とする）。但し、子会社等へ出向し役員になった方は候補者に含めて差し支えないものとする。

d. 女性に対する配慮を積極的に行う。

e. 34年度のJSQC理事は、今年度の推薦対象者から外す。

C. 推薦必要書類：

推薦書（様式219-1）、業績リスト（様式219-2）、上司等の推薦書（様式219-3、ここで上司等とは、元・上司、現・関連部門長を含むものとする。）

様式については、

URL：http://www.jsqc.org/ja/kiroku_houkoku 参照

D. 推薦締切：2005年6月30日

E. メール送付先：kourou@jsqc.org

F. 選考：(社)日本品質管理学会品質管理推進功労賞選考委員会が行う

G. 発表：9月に開催される本学会理事会での承認後で本人ならびに推薦者に通知

H. 表彰：2005年11月12日(土)

本学会年次大会授賞式

I. 連絡先：(社)日本品質管理学会事務局

J. 参考：URL http://www.jsqc.org/ja/kiroku_houkoku/jushou/kouroushou.html

新規研究会メンバー募集

価格対応品質実践研究会

ものづくり企業において、対象製品の品質設計、価格設定、生産期日設定の3要素はQCDとしてバランスを考慮しなければならない重要な要素です。とはいえ、価格を先に設定し、価格に見合った品質と生産工数を設計するという考え方もあれば、品質を先に設計し、その品質に見合った生産工数を算定して価格を設定するという考え方もあります。しかし価格の設定に関しては最終的には企業側に決定権があるとはいえ、市場の要求から決まってしまう傾向にあります。

そこで市場価格に対応した品質設計に関して品質機能展開の考え方を援用し、品質設計と価格設定をコンカレントに検討する方法論が提案されています。この方法論の有効性に関して実践的研究を中心に進める研究会を発足しました。ものづくりの品質設計に関して市場要求品質と市場要求価格を同時に満足する方法論の実践に関心のある学会員を募集します。

主 査：大藤 正（玉川大学経営学部 教授）

開 催 日：第1回・2005年4月20日(水)18時～20時

場 所：日本科学技術連盟 東高円寺ビル3階B室

申込方法：本部事務局宛に会員番号・氏名・所属・連絡先を明記の上、FAXまたはE-Mail（office@jsqc.org）にてお申し込みください。

定 員：20名

2005年1月の 入会者紹介

2005年1月20日の資格審査において、下記の通り正会員14名、準会員3名の入会が承認されました。

.....
(正会員14名) 小原 好一・新倉 健一(前田建設工業) 片山 兼治(豊田合

成) 江藤 雅隆(富士通ゼネラル) 小坂 秀樹(北陸電話工事) 宮地 由芽子(鉄道総合技術研究所) 鷺巢 正吉(三菱化学ヤマトロン) 米田 孝夫(豊田工機) 森田 聡(東京電力) 古市 久男(新日本製鐵) 古市 和久(テクノ経営人材センター) 神山 紀夫(水島工業) 中津 和久(中津事務所) 野口 幸雄(東京理科大学)

.....
(準会員3名) 近藤 総(名古屋工業大学) 中嶋 匡章・本田 新也(山梨大学)

.....
正会員：2945名
準会員：157名
賛助会員：171社198口
公共会員：22口

行 事 案 内

第101回シンポジウム(本部)

テーマ：Q-Japan!

- 品質立国日本再生への道 -

日 時：2005年4月16日(土)

10:00~17:00

会 場：明治大学 リバティタワー1F
リバティホール

プログラム：(タイトルは仮題)

基調講演：Q-JAPAN構想の全体像

飯塚悦功氏(東京大学)

講演1：競争優位の経営戦略

長田 洋氏(山梨大学)

講演2：TQMの課題と将来

前田又兵衛氏(前田建設工業(株))

講演3：企業経営とTQM

桜井正光氏(株リコー)

定 員：300名

参加費：会 員5,000円(締切後5,500円)

非会員7,000円(締切後7,500円)

準会員2,500円

一般学生3,500円

申込締切：2005年4月6日(水)

申込方法：ホームページから申し込みできます。

<http://www.jsqc.org/ja/oshirase/gyouji>

第302回事業所見学会(中部)

テーマ：「最近のナノ切削事例(超精密金型切削)」

日 時：2005年4月22日(金)

13:00~16:00

見学先：(株)樹研工業

本社工場及び神野工場

定 員：30名(会員優先)

参加費：会 員2,500円 準会員1,500円

非会員4,000円

一般学生2,000円

申込締切：2005年4月8日(金)到着分まで

(但し定員になり次第締切)

申込方法：会員No.・氏名・勤務先・所属・TEL・連絡先住所を明記の上、中部支部事務局までお申し込みください。

ISO9000s審査員のためのTQM基礎講座(本部)

- 毎月1回6回開催・会員優先 -

時 間：毎回9:30~12:30

講義1時間30分、演習1時間、質疑CPDの証明時間は3時間です。

会 場：日本科学技術連盟

東高円寺ビル2階講堂

プログラム：

第1回 4月23日(土)

TQMのフレームワークと基本原則

担当：中條武志氏(中央大学)

第2回 5月14日(土)

TQMのための手法 - SQCとその活用

担当：山田 秀氏(筑波大学)

第3回 6月18日(土)

TQMの活動要素(1) - 日常管理と標準化

担当：平林良人氏(株テクノファ)

第4回 7月23日(土)

TQMの活動要素(2) - 方針管理と改善活動

担当：村川賢司氏(前田建設工業(株))

第5回 8月27日(土)

TQMの活動要素(3) - 品質保証と新製品開発

担当：棟近雅彦氏(早稲田大学)

第6回 9月10日(土)

新JISと標準化をめぐる最近の動向

担当：矢野友三郎氏(経済産業省)

定 員：毎回先着100名

参加費：会 員4,000円(各回)

(6回一括申込：20,000円)

非会員8,000円(各回)

申込締切：2005年4月15日(金)

(各回とも締切は開催の1週間前)

申込方法：ホームページから申し込みできます。

<http://www.jsqc.org/ja/oshirase/gyouji>

第94回講演会(関西)予告

テーマ：「新JIS改訂の解説と新旧比較」(仮題)

日 時：2005年5月20日(金)

13:30~16:00

会 場：中央電気倶楽部 講堂

定 員：100名

参加費：会 員3,000円 準会員1,500円

非会員4,000円

一般学生2,000円

申込方法：関西支部まで、お申し込みください。

第77回研究発表会(本部)

日 時：2005年5月27日(金)・28日(土)

会 場：日本科学技術連盟・千駄ヶ谷本部

プログラム：

5月27日(金)

10:00~11:15 チュートリアルセッションA
「知識の構造化によるトラブルの予測と未然防止」

田村泰彦氏(株)構造化知識研究所)

11:25~12:40 チュートリアルセッションB
「リコーにおける人材育成」

永原賢造氏(株リコー)

12:30~18:20 研究発表会 2会場

18:30~20:00 懇親会

5月28日(土)

10:00~16:30 研究発表会 4会場

参加費：

チュートリアルセッション・研究発表会

会 員6,000円(締切後6,500円)

非会員8,000円(締切後8,500円)

準会員3,000円

一般学生4,000円

研究発表会のみ(1日参加/2日参加とも)

会 員4,000円(締切後4,500円)

非会員6,000円(締切後6,500円)

準会員2,000円

一般学生3,000円

懇親会

会 員・非会員 4,000円

準会員・一般学生2,000円

申込締切：2005年5月17日(火)

申込方法：同封の参加申込書にご記入の上、本部事務局までお申し込みください。ホームページからもお申し込みできます。

<http://www.jsqc.org/ja/oshirase/gyouji>

行 事 申 込 先

本 部：TEL 03-5378-1506

FAX 03-5378-1507

E-mail: apply@jsqc.org

事務局携帯：090-9128-7979

中部支部：TEL 052-221-8318

FAX 052-203-4806

E-mail: nagoya51@jsa.or.jp

関西支部：TEL 06-6341-4627

FAX 06-6341-4615

E-mail: kansai@jsqc.org